

第八節 明治四十一年

明治四十一年度東京美術學校年報

甲 款

概況

明治四十一年七月廿五日ヨリ二週間本省開催ノ圖書館ニ關スル事項ノ夏期講習會ヲ本校内ニ開カス

十月四日例ノ如ク本校設置記念式ヲ舉行ス

明治四十二年一月八日授業始ニ付例ニ依リテ 勅語捧讀式ヲ行フ

三月廿七日午前十時ヨリ第十八回卒業証書授與式ヲ行ヒ生徒ノ平常成績並ニ卒業製作ヲ來賓ノ觀覽ニ供セリ

三月廿八日ヨリ三日間試験後ノ休業ヲ利用シテ本校生徒成績品展覽會ヲ開キ社會人士ノ觀覽ニ供セリ

本校校舍新築ノ一部ナル圖案金工漆工鑄造ノ諸科及化學室(二)ノ新築工事ハ漸次其歩ヲ進メ本年度末ニ至リテハ大半落成セリ

規程

本年度内ニ在リテハ規則規定等ノ改正創定シタルモノナシ

設備

一、圖畫師範科設備費

圖畫師範科ハ明治四十年度ニ於テ初メテ設ケラレタルモ從來此科教授用及共用ノ器具機械等ノ設備費トシテ少額ノ費用ヲ給セラレタルノミナルヲ以テ到底未タ完備スルニ至ラズ 加

フルニ四十二年度ニ於テハ生徒ノ第三學年ニ進入スルモノアルヲ以テ益々之カ設備ノ必要ニ迫ルアリト雖余裕ナキ本校ノ經費ニテ其計畫ヲ施スヲ得ス 故ニ此費用ヲ支出セラレンコト目下ノ急務ナリ

二、金工科漆工科設備費

金工漆工ノ兩科ハ本邦在來ノ坐業式ヲ以テ教授スレトモ教授上不便ナルノミナラス敏活ヲ缺キ衛生ニ適セサルヲ以テ腰掛ノ制ニ改メントセルハ數年來計畫スル所ナレトモ之ニ充ツル費用ナキタメ未タ實施スルノ運ヒニ至ラザリシカ今ヤ新築ノ校舍竣成ヲ告ケントシ之ヲ改良スルノ期熟セリ 故ニ本費用ヲ支出セラレンコト切ニ希望スル所ナリ

三、講堂設備費

本校改築ト共ニ講堂ヲ設ケラル、ニ至リタルハ本校多年ノ計畫ヲ實現スルヲ得テ喜フヘキコトナレトモ内部ノ設備ナクンバ落成ノ後其用ヲ爲サ、ルヲ以テ此際本費用ノ支出亦緊要ノコトナリトス

四、圖書標本及閱覽室設備費

本校文庫ハ舊帝國圖書館ノ書庫並ニ閱覽室ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得タルヨリ多年ノ宿志ノ一部ヲ果スコトヲ得テ爾後夜間モ公開シ本校職員生徒及校外篤志者ノタメニ廣ク修學ノ便ヲ與ヘ參考ニ資スルコト、ナンタルモ圖書標本ハ高價ノモノ多クシテ未タ不備ヲ免レス 殊ニ之ニ要スル陳列函陳列臺等ハ常置陳列所用トシテノ設備闕如セルヲ以テ目的ヲ達スル上ニ於ケル遺憾尠カラス 故ニ之ガ費用ヲ支出セラレンコト必

要ノコトタリ

職員

本校職員ノ俸給及諸給ハ目下ノ費額ニテハ常ニ不足ヲ告ケ加フルニ去ル四十年ヨリ圖書師範科ノ増設セラレタルアルヲ以テ其學級ノ進ムト共ニ從テ擔任教員ヲ増スノ要アリ 故ニ豫算ヲ増額スルハ目下ノ急要事項ナリトス

本年度末ニ於ケル職員ノ數ハ教授二十三人助教十九人書記四人嘱託講師八人同教員五人副科嘱託三人教務雇六人事務雇九人ニシテ之ヲ前年度末ニ比スレハ教授助教嘱託講師事務雇ニ各一人ヲ増シタリ

外國留學生ハ本年度末ニ於テ教授一人助教一人アリテ前年度ニ異ラス

休職員ハ前年度末ニハ一人アリタルモ本年度末ニ在リテハ之ヲ減シタリ

生徒

全体生徒ノ操行学力健康ニ於テハ前年度ニ比シテ著シキ差違ナキモ新入學生ハ前年ニ比シテ体格良好ナルヲ認ム

本年度新入學者ハ本科八十二人撰科二十人圖書師範科二十人研究科十八人ニシテ其學力ノ程度ハ本科生ニアリテハ公立中學校卒業ノモノ四十三人私立中學校卒業ノモノ十六人師範學校卒業ノモノ一人府縣工業學校卒業ノモノ七人各府縣工藝學校卒業ノモノ十五人撰科生ニアリテハ私塾等ニテ實技ヲ修メタルモノ少カラサルカ學力ノ程度ヲ見ルニ高等工業學校卒業ノモノ一人縣立工藝學校卒業ノモノ一人公立中學校二學年修了ノモノ一人高等小學校卒業ノ

モノ八人同程度ニ依リテ試験ノ上入學ヲ許シタルモノ六人外國人ノ入學ヲ許シタルハ清國人二人韓國人一人圖書師範科生徒ニアリテハ師範學校卒業ノモノ二人官公立中學校卒業ノモノ十八人研究生ハ孰レモ本校卒業生ノ入學セシモノナリトス

新入學生ノ年齡ハ本科生ハ最高二十五年九ヶ月最低十八年四ヶ月平均二十一年三ヶ月撰科生ハ最高廿六年七ヶ月最低十七年五ヶ月平均二十年七ヶ月圖書師範科生ハ最高二十四年最低十八年五ヶ月平均二十一年五ヶ月研究科生ハ最高二十八年七ヶ月最低二十三年九ヶ月平均廿六年二ヶ月(孰レモ外國人ヲ除ク)ナリトス

生徒ノ入退學ハ本年度入學者ハ本科八十二人撰科二十人圖書師範科二十人研究科十八人轉科セシモノ六人復校セシモノ一人ニシテ本年度退學者ハ病氣十人家事係累四十二人除名十人死亡二人ナリ

今之ヲ前年度ニ比スレバ入學者ニ在リテハ本科ニ八人ヲ減シ撰科ニ九人ヲ増シ圖書師範科ニ一人ヲ増シ研究科ニ二十一人ヲ減シ轉科ニ一人ヲ減シ復校ニ一人ヲ増シ(前年度ナシ)退學者ニ在リテハ病氣ニ一人ヲ増シ家事係累二十二二人ヲ増シ死亡者ニ二人ヲ増シ(前年度ナシ)逐學ニ三人ヲ減シ(前年度ニ三人アリ)除名ニ増減ヲ見ス

生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度末ニ比スレバ日本畫科ニ三人ヲ西洋畫科ニ七人ヲ彫刻科ニ九人ヲ圖案科ニ四人ヲ鑄造科ニ一人ヲ撰科ニ四人ヲ圖書師範科ニ十七人ヲ増シ金工科ニ二人ヲ漆工科ニ三人ヲ研究科ニ十二人ヲ減シ差引二十八人ノ増加ヲ見ルニ至リタルガ此中圖書師範科十七人ノ増員ハ同科設置以來第二回目ノ入學生ヲ募集シタルニ基キ研究科ニ十二人ヲ減シタルハ入學者

ノ少キニ依レリ 而シテ又撰科中ニ清國人四人韓國人一人暹羅國人二人研究科中ニ米國人一人アリ

本年度ノ卒業生ハ本科三十八人撰科八人計四十六人ニシテ前年度末ニ比スレハ十一人ヲ減セリ

生徒中學術品行殊ニ優等ナルモノヲ撰ヒ明治四十一年九月ヨリ一學年間授業料ヲ免除シ特待生ヲ命シタルモノ十九人アリテ前年度ニ比スレハ四人ヲ増セリ

生徒中一學年間學業ニ精勵シタルモノヲ撰ヒ之ヲ表彰スルタメニ精勤賞状ヲ授與セシモノ十六人又在學五ヶ年間ノ精勤賞状ヲ授與セシモノ一人計十七人アリテ前年度ニ比スレハ二人ヲ増セリ

實業學校教員養成規定ニ依リテ學資ヲ補給シタルモノハ二人ニシテ前年度ニ比スレバ一人ヲ減セリ

圖書師範科生徒ニハ毎月學資トシテ金六円ツ、ヲ支給ス 其本年度末人員ハ三十六人ニシテ前年度末ニ比スレハ十七人ヲ増セリ之レ同科設置以來二回目ノ入學者アリタルニ由レリ

明治四十二年三月末ニ於テ卒業スヘキ生徒ヲシテ實地修學ノタメ四十二年九月十四日ヨリ三週間ヲ以テ助教二人囑託講師一人雇一人ヲシテ之ヲ引率セシメ京都及奈良滋賀ノ一府二縣へ出張研究セシメタルコト前年ニ異ラス

本校生徒ハ皆通學ナルヲ以テ寄宿舎ニ関シテハ申報スヘキ事項ナシ

将来施設上重要ト認ムル件

甲 留學生増派ノ件〔三十九、四十年年度報告と同文につき省略。〕

乙 研究生ニ學資給與ノ件〔四十年年度報告とはほ同文につき省略。〕

丙 生徒實地研究費増額ノ件〔新設項目〕

生徒ヲシテ廣ク古來名家ノ作品ニ親マシメテ作風ト手法トヲ研究セシメ社寺殿堂ヲ實見セシメテ構造様式ヲ會得セシメ建築及工藝品ニ就キテ遍ク圖案ノ變遷ヲ知ラシメ以テ歴史的ノ觀念ヲ確實ニ養成シ本校ニテ講授スル所ノ美術史其他ノ學科トノ連絡ヲ計ルハ修學上必要ニシテ其裨益モ亦鮮カラザルナリ 本校毎年卒業期生徒ヲシテ京都奈良地方ニ出張セシメ實地研究ヲナサシムル蓋シ此主意ニ依レルナリ 然ルニ從來ノ費用猶不足ヲ告クルノ有様ナリシニ拘ハラス四十二年度ニ於テ非常ノ削減ヲ見タルハ洵ニ遺憾トスル所ナリ 依リテ之ヲ復舊増額セラレンコトヲ望ム

丁 建築科特置ノ件〔三十九、四十年年度報告とはほ同文につき省略。〕

戊 製版科新設ノ件〔新設項目〕
本邦ノ製版術ハ其發達遲々トシテ未タ西洋製版術ト頡頏スルニ至ラス 美術作品ノ如キ複製ノ際ニ於テ体裁ヲ損シ趣味ヲ没シ遺憾少カラス 而シテ本邦未タ製版技術家養成ノ施設ナキヲ以テ此儘ニ放任スルトキハ終ニ改善ノ途ナキヲ以テ製版科ヲ本校ニ新設シテ此欠陥ヲ補ハントス 製版術ハ繪畫圖按ヲ以テ基礎ノ學習トナスモノニシ本校ハ此等ノ技術ヲ教授スルニ尤モ便宜ヲ有スルヲ以テ其施設ハ甚容易ナルヘシ

己 陳列館新設ノ件〔三十九、四十年年度報告に多
少訂正が加えられている。〕
如何ナル種類ノ學校モ參考標本ヲ必要トセサルモノナシト雖美術及美術工藝學校ニ於テハ參考標本ハ殆其生命トモ謂フヘキモノナルガ故ニ歐米諸國ニ於テハ博物館内ニ美術學校ヲ附設スルカ或ハ美術學校内ニ博物館ヲ附設スルカヲ常トセリ 兩者ノ關係實ニ離

ルヘカラサルモノアリ 且美術學校ノ如キ種類ノ學校ニ在リテハ畜ニ在校ノ生徒ヲ教養スルノミヲ以テ満足スヘキニアラス或ハ其蒐集シタル参考品ヲ博ク示スコトニ依リテ或ハ其研究シタル所ヲ講義又ハ出版ヲ以テ公ニスルコトニ依リテ一般ノ美術社會工藝社會ヲ裨益スルコトヲ努メサルヘカラス 然ルニ本校ノ如ク教場スラ狹隘ヲ告クルカ如キ状態ナルガ故ニ僅少ナル参考標本モ之ヲ排列収蔵スル所ナクシテ徒ニ教場ノ一隅ニ雜陳スルガタメニ塵埃ニ委シ易ク又屢々移動スルノ已ムヲ得サルカタメニ破損シ易シ 在校生徒ニ示スタニ尚不便ヲ感スルカ故ニ博ク示シテ以テ美術社會ヲ益スルコト能ハス 故ニ今日ノマ、ニテハ美術學校ノ効用ノ一半ヲ欠クモノト云フヘシ

本校校舎ハ既ニ改築ニ着手シ兩三年後ニハ完成ヲ告クヘシ 陳列館モ亦之ト同時ニ建築セラル、コト、ナラハ學校ノ設備完全ニシテ既ニ蒐集シタル標本ヲモ陳列シ尚漸ヲ追テ博蒐ニ努ムルトキハ之ヲ時代ノ順序ニ依テ排列スルコトヲ得テ一見美術工藝ノ變遷ノ由ル所ヲ知ラシムルニ足ルヘシ 此ノ如クナルトキハ教授上ノ便宜ハ更ナリ貴重ナル標本ノ保存法モ亦全キヲ得ヘク之ニ依テ美術社會ヲ益スルコトモ尠少ナラサルヘシ 陳列館ハ畜ニ参考標本ヲ陳列スル所トシテ必要ナルノミナラス生徒成績品展覽會場トシテ又生徒成績品陳列場トシテ缺クヘカラサル所ナリ 四十年度ヨリ毎年生徒成績品展覽會ヲ開設スルコト、ナリタルニ若シ陳列館ノ設ナキトキハ教室ヲ以テ展覽會場ニ充テサルヘカラス 斯ル場合ニハ展覽會期ハ勿論其準備跡片付ニ要スル日子少カラスシテ其間教授ヲ休止セサルヘカラサルノ不便アリ 且本校生徒卒業ノ際本

校ヨリ材料ヲ資給シテ製作セシムル卒業製作ハ之ヲ保存スル規定ナルガ故ニ卒業生ノ年ヲ逐テ増加スルニ依リ倉庫狹隘ヲ告ゲ之ヲ推積スルノ已ムヲ得サルニ至レリ 若シ之ヲ陳列館内ニ排列シテ在校生徒ニ示スノミナラス博ク内外ノ來觀者ニ示スコトヲ得ハ物品保存ノ途立ツノミナラス學校技術ノ功程ヲ公示スルニ足ルモノアルヘシ 由是觀之美術學校本然ノ効用ヲ完全ニ収メンガ爲ニハ陳列館新築ノ必要アルコト明ナリ

雜件
生徒實驗ノ資ニ供スルタメ諸所ノ依囑ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノ、中重モノルモノヲ學クレハ左ノ如シ

依囑製作品一覽

品名	数量	受託年度	竣工別	依囑者
龍銀製花瓶	三對	前々年度	竣工	曾我元日本鐵道會社社長
府縣聯合共進會賞牌	一千三百九十二個	前々年度	同	農商務省
岡田龍銅像	一軀	同	同	岡田龍
佐藤進銅像	一軀	同	同	菅野徹
佐藤順天堂二院長銅像	二軀	本年度	同	同
銅製虎置物	一個	同	同	統監府大屋權平
東京勸業博覽會賞牌	三千七百七十五個	同	同	東京府
府縣連合共進會賞牌	四千二百三十四個	同	同	農商務省
仙臺廣瀨橋高欄	一式	同	未竣工	宮城縣
紀念文字	拾五字	同	同	毛利公爵